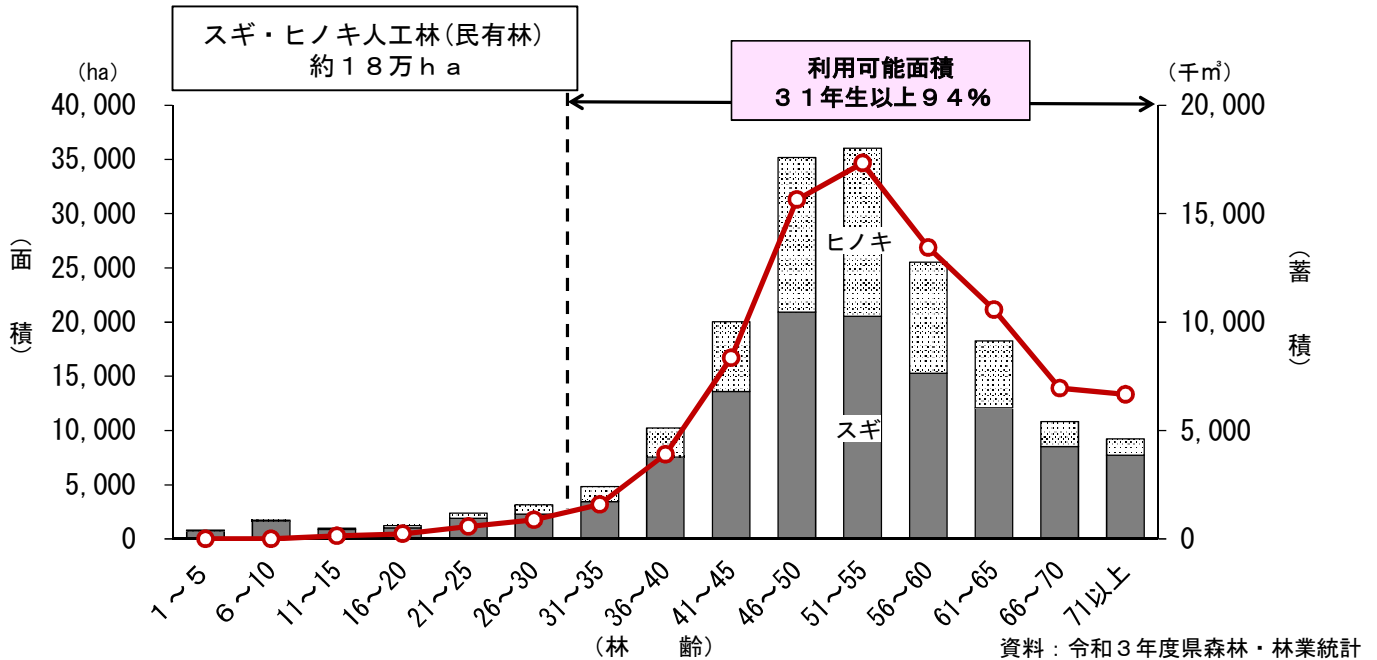


1 森林資源の現状

- 当県のスギ・ヒノキ人工林(民有林)は、利用可能な資源として、着実に充実(51~55年生がピーク)
- 31年生以上の利用可能な資源が94%を占め、利用期を迎えている。



2 木材加工施設の整備状況

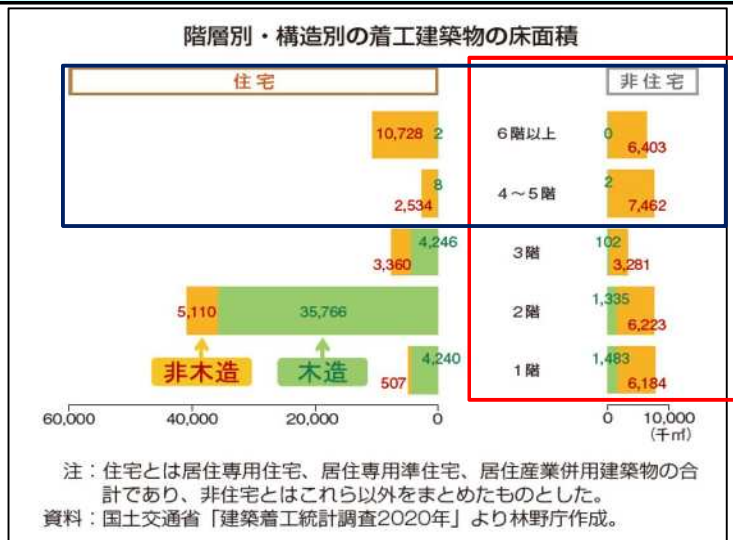
- 県では、これまで品質の確かな製材品のニーズに対応するため、寸法や乾燥等がJAS規格に準じた製品を「認証かごしま材」として利用促進してきたところ。
- また、JAS規格に対応し、国産材を利用した新たな建築材料であるCLT(直交集成板)やツーバイフォー工法部材の生産工場の整備を支援してきている。

認証かごしま材	15工場(H15~)	
CLT(直交集成板)	1工場(H26~)	(R3:1工場整備中)
2×4工法部材	1工場(H27~)	(R3:1工場整備中)
JAS機械等級区分構造用製材	1工場(R2~)	



3 県産材の需要創出に向けた課題

- 木材需要と密接な関係にある住宅着工戸数は減少傾向にあり、県産材需要の減少が懸念
- 中高層建築物や**非住宅建築物**における木材利用の割合が低い。



※公共建築物等木材利用促進法の改正やカーボンニュートラルの実現に向けた取組など、木材利用の期待が高まる中、県産材の需要創出を図るためには、中高層建築物等の構造計算に用いることが可能な強度表示のあるJAS構造材の生産体制の整備や普及促進が必要

宣言項目： 9

鹿児島県

JAS構造材(機械等級区分構造用製材)の生産体制の構築に向けた取組

<ポイント>

- 1 需要者ニーズに対応した品質・性能の確かなJAS構造材の生産体制の整備方針を作成
- 2 JAS構造材の認証取得や販売促進活動に対する支援

1 JAS構造材生産体制の整備方針の作成

中高層建築物や非住宅建築物における県産材の利用拡大を促進するため、強度表示があり構造計算に用いることが可能なJAS構造材の生産体制の整備方針を作成

【生産工場連絡会の開催】

- ・JAS構造材の生産に意欲的な製材工場関係者間で認識の共有を図るため、生産工場連絡会を開催
- ・生産体制の整備に向けた協議・検討を行い、整備方針を作成

【需給連絡協議会の開催】

- ・木材関係者や建築・設計関係者等で構成する需給連絡協議会を開催
- ・JAS構造材の需給動向やニーズの高い性能・規格等の把握・分析
- ・整備方針作成に係る生産工場連絡会への情報提供・アドバイス

2 JAS認証取得や販売促進活動に対する支援

県産材の競争力強化を図るため、JAS構造材の認証取得や販売促進活動に対する支援

【JAS認証取得の取組に対する支援】

- ・JAS構造材の認証取得に必要な施設整備や検査手数料などの経費の一部を支援

【JAS製材品の販売促進活動に対する支援】

- ・JAS製材品の販売促進を図るために必要な活動経費の一部を支援



【JAS構造材】



【販売促進活動】

<今後の展開>

- JAS構造材生産体制の整備方針に基づき、JAS認証取得に必要な施設整備や経費の一部を継続支援
- JAS構造材の生産・供給体制を構築し、かごしま材の競争力を強化